



話そう！伝えよう！自分の気持ち

～自分の言葉でのびのびと表現できる子どもを目指して～

真中保育所

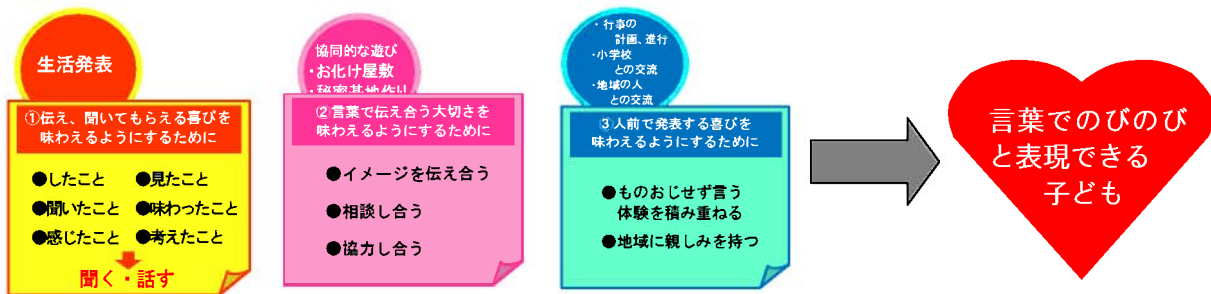
保育士 加賀谷 紫
 保育士 虻川 美保子
 保育士 工藤 悠

1 はじめに

本所では、昨年度から自分の言葉でのびのびと表現できる子どもを目指し、年長児に重点を置いて研究を進めてきた。しかし、実際に取り組んでみると、口ごもったり萎縮してしまったりするような姿が見られ、改めて、思っていることや感じたことを言葉で表現することの難しさを感じた。そのため、今年度も引き続きこの研究を進め、子ども達が言葉でのびのびと表現できるようにしていきたいと考えた。

2 研究の保育計画

思ったことや感じたことを言葉でのびのびと表現できる子どもを育てるために、「生活発表」、「協同的な遊び」、「行事を自分達で計画し、進める経験」や「小学校・地域との交流」という3つに重点を置き、環境を構成した。



3 活動の実際

(1) 生活発表

①保育士の工夫

- ・きちんとした話し言葉 ⇒ 発表の仕方を知らせる(「です」「ます」など)
- ・丹になって発表をする ⇒ 相手の顔が見える
- ・段階を踏んだ問いかけ ⇒ 質問内容を変化させたり ⇒ 相手に伝わりやすい表現
- ・話すことが苦手な子 ⇒ 言葉を添える ⇒ 優しく声をかける ⇒ 話しやすい雰囲気をつくる

②段階を踏んだ問いかけ

- ステップⅠ** 子ども達から、言葉を引き出すような問いかけをする
- ステップⅡ** イメージを膨らませながら、答えなければならない質問をする
- ステップⅢ** 話しやすい雰囲気をつくりながら、自分で体験したことなど思っていることや感じたことを話せるような質問をする
- ステップⅣ** ・話したいことを自由に話せる場をつくる
・手を挙げて発表することができたことを十分に褒める

③活動を通した育ち

自分の思いを相手にわかるように伝え、聞いてもらえることで話す喜びを味わうことができた



(2) お化け屋敷ごっこ、秘密基地作り

①保育士の工夫

- ア それぞれの思いやイメージをつなげ
- イ 話し合いをまとめられるように援助する

②遊びの中で言葉で伝え合う大切さを味わえるようにするために

- ア 自分達で話をまとめられない様子



- イ 自分たちで活発に意見を出し合う様子



③活動を通した育ち

協同的な遊びを経験し、友達と言葉を交わしながら自分の考えがみんなの中で活かされていく楽しさや実現していく楽しさを味わうことができた。

(3) 行事、交流

①保育士の工夫

- ア 子どもの思いや考えを引き出し、自主的な活動を援助する
- イ 地域に出かける機会を多く持った

②人前で発表する喜びを味わえるようにするために

- ア 運動会での感想発表
- イ 自分達で行事を計画し、進める経験
- ウ シナリオやセリフを自分たちで考えた劇遊びの発表（「みんななかよし」）
- エ 南小学校との交流
- オ 地域訪問（公民館、郵便局、床屋さん、J A）

③活動を通した育ち

- ア 行事や所内の活動の中で、自分で考えた言葉で話せるようになった。
- イ 人前や初めての場で、物おじせずに発表できるようになった。
- ウ 地域の人と言葉や挨拶を交わし、親しみを持つことができた。



4 成果と課題

(1) 成果

- ①生活発表の経験を通して、子ども達は今まで言えなかった自分の思いを伝えたり、友達に聞いてもらえることで話す喜びを味わうことができた。
- ②協同的な遊びの中で言葉で伝え合う大切さを知り、自分の考えがみんなの中で活かされていく嬉しさや、実現していく楽しさを味わうことができた。
- ③行事や交流活動では、人前で話す経験をしたことで、大勢の人の前や初めて経験するような場面でも友達と考えを出し合いながら発表できるようになった。
- ④この研究を通して保育士同士の保育観が共通になり、同じ思いを持ち協力し合いながら子ども達を保育することができた。

(2) 課題

- ①保育所外での活動や初めて経験するような場面では、仲間同士では自信を持って発表することができるようになってきたが、一人ではまだ自信がもてない子も見られた。
- ②今後も、安心して話ができるように援助しながら、言葉を使って伝える経験を積み重ね、『勇気』を持って話せるようにしていきたい。
- ③今年度は年長児に重点を置いて活動を計画したが、来年度は2・3・4歳児にもこの実践を活かし、年齢に即した活動内容を考え研究を続けていくことで、子ども達に自分の思いを言葉で表現する楽しさを知らせていきたい。